

今週のセルグループ(赤字)		2月7日(日)~2月13日(土)	
セル(リーダー)	次回の日時	場所	前回の証しなど
リバイバル北山姉	2/7(日) 礼拝後	LINE 電話	1/31 2名 自分の態度に高ぶりがあることを示された。しもべとして生きたい。
グレイス鈴木千姉	2/12(金) 午後8:30	鈴木宅	1/29 3名 人のために自分を捧げなさいと語られた。いつも自分を優先に考えていた。
Gospel鈴木尚姉	2/7(日) 礼拝後	交わり	1/24 2名 自分が前向きになった事で、関係が変わっていった。人の事を気遣う事が仕える事。
オイコス磯貝姉		LINEで分かち合い	1/31 9名 聖霊様に私を造りかえてくださいと祈って備えました。心が平安に守られて感謝でした。
からし種磯貝姉	2/25(木) 午前10:00	Zoomで分かち合い	1/28 4名 自分は変わらない。イエス様を着て、仕えていたかかないと何も出来ない者。
ユース岩下兄	2/21(日) 午後1:00	LINEで分かち合い	1/31 5名 イヤイヤではなく喜んで仕えなさいと語られて、お願いされたことを喜んでできた。
Rock鈴木洋兄	2/17(水) 午後8:30	鈴木宅	1/20 3名 神を恐れて生活して行きたい。
シャローム平岩姉	2/20(土) 午前10:00	平岩宅	1/30 2名 神様がここにおいてくださったので、喜んでここで人のために仕えて行く決意。
なつめやし高橋智姉	2/14(日) 午後2:00	高橋宅	1/31 5名 人に仕えているつもりだったが、自分のためだった。仕える者になるために祈った。
リジョイス杉本姉	2/16(火) 午前10:15	LINEで分かち合い	1/26 3名 近況、祈りの課題を分かち合いました。
ジョイフル穂苅兄	2/18(木) 午後9:00	Zoomで分かち合い	1/21 3名 セルリーダーのためにお祈りください。
アガベ長塚姉	2/14(日) 練習後	コメダ	1/24 3名 楽しい交わり、癒しのお証しで恵まれました。
サクセス鈴木勝兄	2/14(日) 礼拝後	テラドロー	1/24 11名 食事の交わり
リーダーズセル	2/10(水) 午後7:00	Zoomで分かち合い	1/13 22名 今週です。
セル研修	休講		
ビジョン平岩恵兄	2/7(日) 午後1:00	コメダ	1/31 3名 職場で新しい仕事を与えられた。神様が人に仕えるように促されている。
worship長塚寛兄	中止		
高校生平岩姉	中止		
中学生梅田姉	中止		
キッズ2小山姉	中止		
キッズ1芳井姉	中止		
Shine小原姉	2/14(日) 礼拝後	エステル	1/24 4名 洗礼を受けて何かが劇的に変わったわけではないのですが、気持ちが変わりました。
ギデオン芳井兄	2/13(土) 午後6:30	芳井宅	1/23 3名 恐れる必要はなく、祈って主に感謝すること。
カルバリ野田兄	2/16(火) 午前9:00	野田宅	1/19 5名 交わり
神の家族伊岐見真姉	2/13(土) 午後7:30	LINE 電話	1/25 2名 セルリーダーのためにお祈りください。

礼拝奉仕		聖日礼拝		祈祷会	
		司会	奏楽	奏楽	
今週	2/7(日)	大高愛姉	鈴木尚姉	2/11(木)	大高愛姉
		開始時間 午前10時			
来週	2/14(日)	大高愛姉	鈴木千姉	2/18(木)	鈴木千姉
		開始時間 午前10時			

※ 杉本姉妹のお父様の繁春様が2/3(水)にお亡くなりになりました。残されたご家族の平安と慰めのためにお祈りください。

- 祈りの課題
- ・人々の救いを覚えて
 - ▶ 家族知人をキリストへ
 - ▶ 教会近隣の人々の救い
 - ▶ 東海地方の救いのために
 - ▶ 日本の救いのために
 - ▶ 世界の救いのために
 - ・働きを覚えて
 - ▶ バイブルスタディの働き
 - ▶ リバイバルワイヤーの働き
 - ▶ リバイバルマズの働き
 - ▶ 那古野アウトリーチの働き
 - ▶ 祈祷会の祝福
 - ▶ 日曜礼拝の祝福
 - ▶ 牧師の働き
 - ・ギデオン協会の働きのために
 - ・セルグループの祝福
 - ▶ LTG人生変革グループの祝福
 - ・プレーヤーハウス獲得のために

聖日礼拝 (日曜) (第一) 午前 9:00~10:30 (第二) 午前11:00~12:30

キッズセル(子供礼拝) (日曜) 午前 9:00~10:30

日曜礼拝バイブルスタディ (日曜) 午前11:00~12:30
☆第一礼拝に出席してから、ご参加下さい。

バイブルスタディ (第1、第3火曜) (昼) 午後 1:00~ 2:30 (夜) 午後 7:00~ 8:30

祈祷会 (木曜) 午後 7:00~ 8:30

特別早天祈祷 (土曜) 午前 6:00~ 7:00

主の御手 週報 NO.1333

2021年2月7日(日)発行 2月第1週

私たちのビジョン [宣教] 主の御手が彼らとともにあったので、(使徒の働き11:21) 大ぜいの人々が信じて主に立ち返った。

日曜礼拝

開始 10時

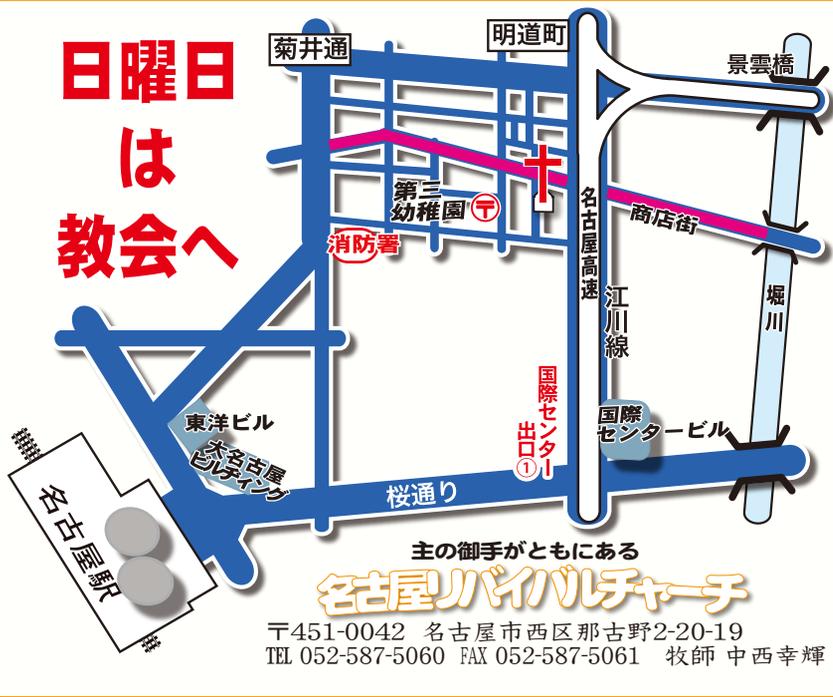
- ・讃美
- ・祈り
- ・聖書交読 (司会者と交互に全員で読みます。)
- ・讃美
- ・祈り (祈りの姿勢をおとり下さい。)
- ・メッセージ
- ・祈り
- ・神への感謝 (集会感謝の献金があります。ご意志で自由にどうぞ。)
- ・主の祈り (初めての方はスクリーンをご覧になってどうぞ。)
- ・連絡

お願い

- (1) 礼拝後は、必ずコイノニアルームなど、室内にお入りください。道路上にとどまることがないようにお願いします。
- (2) また、必ず一度は、コイノニアルームに立ち寄りをお願いします。重要なお知らせなどがあります。

今年のテーマ 私たちが神を愛したのではなく、神が私たちが愛し、私たちの罪のために、宥めのささげ物としての御子を遣わされました。ここに愛があるのです。(ヨハネの手紙 第一 4章10節)

日曜日は教会へ





隣人を愛する

「マルコ12：29-31 イエスは答えられた。『第一の戒めはこれです。【聞け、イスラエルよ。主は私たちの神。主は唯一である。あなたは心を尽くし、いのちを尽くし、知性を尽くし、力を尽くして、あなたの神、主

を愛しなさい。】第二の戒めはこれです。【あなたの隣人を自分自身のように愛しなさい。】これらよりも重要な命令は、ほかにありません。』」

赤毛のアン

ふとしたことから中高生時代に愛読した「赤毛のアン」を思い出し、手元に本がなかったので、何気なく検索してみると、「赤毛のアン」はキリスト教小説だと知りました。思い起こすと、アンが祈りを学ぶ場面や、牧師夫妻を食事に招待する場面などがありました。アンも牧師夫妻をととても尊敬し、その信仰に憧れていました。当時はわかりませんでした。みことばも引用されていたようです。その頃は、ただアンのかつたくのないおしゃべりや、彼女が巻き起こす数々の事件、友情や恋愛、昔ながらの手作りの生活、季節ごとに移り変わる美しい自然の風景・・・そんなも

のに惹かれて、全10巻を読破し、気に入ったところを何回も読み直しては楽しんでいました。物語の舞台となっているカナダのプリンス・エドワード島は、今でも行ってみたい場所の一つです。

隣人愛の実践

「赤毛のアン」の物語は、孤児である11歳のアンが、マシューとマリラという老兄妹に引き取られるところから始まります。二人は本当は畑仕事を手伝ってくれる男の子がほしかったのですが、手違いで女の子が来てしまったのです。マリラははじめアンを引き取ることに反対で、女の子は役に立たない、と言いますが、マシューは「でもなあ、わしらが、あの子の役に立つかもしれないよ」と言います。子育てをしたことのないマリラも、結局自分たちの願いよりも、予期せずここにやって来たこの女の子をあわれんで、育てる決心をすることになります。

翻訳者の一人は、この小説のテーマは、キリスト教の「隣人愛の実践」であると言っています。二人がアンを引き取ったのは、無邪気なアンの魅力に惹かれてということもありますが、根底にはキリストの慈悲の愛があることがわかります。聖書は社会的弱者を守ることをはっきりと教えています。「父である神の御前できよく汚れのない宗教とは、孤児ややもめたちが困っているとき

に世話をし、この世の汚れに染まらないよう自分を守ることです。ヤコブ1：27」。そして物語が進むにつれ、アンを引き取ったことは二人にとっても、もちろんアンにとっても幸福なことだったことが明確になって行きます。

コロナ差別

新型コロナウイルスの感染拡大がはじまって、一年が経とうとしています。変わらないのは感染者に対する差別です。つい最近も、感染した人が勤め先から「あなたの不注意のせいでみんなが迷惑している」と非難され、回復して医者から許可が出ているにもかかわらず、出社を拒否されたという事例が報道されていました。人々がコロナ禍に慣れて来たとも言われますが、コロナ差別は相変わらずなのだ、と思いました。ある自治体のコロナ差別関連のホームページを見ると、「戦うべき敵は『新型コロナウイルス』であり『隣人』ではないことを再認識してください。」と書かれていました。冷静に考えれば、感染を完全に防ぐのは誰にでも難しいことですから、感染した人を責めるのはおかしいことです。明日は我が身かもしれません。

そんな中で少し安心する記事を目にしました。昨夏、与論島（よろんとう）でクラスターが発生したことがありましたが、県本土の病院から回復して帰島した人たちを、島の人々は「おかえ

り」「大丈夫だったか」と温かく出迎えたそうです。与論島は歴史的にも疫病や飢饉の苦難を経験しているため、非難する考えには至らなかったのではないかなんとも言いますが、そんな経験がなくても、皆がこのようであったらよいのにと思いました。

隣人を愛する

聖書は「あなたの隣人を自分自身のように愛しなさい。」と教えています。イエス様は「良きサマリア人のたとえ」で、強盗に襲われた人をかわいそうに思って、手厚く介抱したサマリア人こそが、この襲われた人の隣人であると教えられました。困った人を見たとき、かわいそうに思うこと、つまりあわれみの心を持つことが、神様が私たちに望んでおられることです。

このみことばの「隣人」とは、家族知人だけでなく、私たちの周りにいるすべての人です。私たちはみんなが孤児を引き取ることはできませんし、ホームレスの人を直接的に助けることも通常はできません。しかし、私たちの周りにいる苦境に立たされた人、困っている人を思いやる心を持つことは誰にでもできることです。神様がまず私たち罪人をあわれんでくださり、見捨てず、愛し救ってくださったことを、私たちは忘れてはなりません。